

大分教育事務所訪問 51

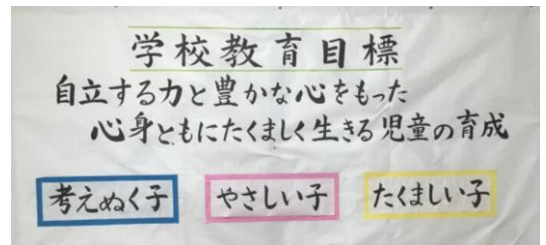
大分市立大在小学校から学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「自立する力と豊かな心をもった、心身ともにたくましく生きる児童の育成」を達成するため、「自立と協働」を合言葉に、目指す子ども像を「考えぬく子」「やさしい子」「たくましい子」として、それぞれの部会を中心に組織的に取り組んでいます。

1002名の児童を成長させるため、毎週木曜日の企画委員会と学年部会や各分掌部会を連動させながら、主任だけでなく、中堅、若手も含むそれぞれの担当者に職責を与えています。そのため大規模校であっても、校時表の組み換えや、読解力をつけるための「すきま読書」、5、6年の教科担任制、帰りの会による「人間関係づくりプログラム」等の改革が行われています。

また、長年継続してきた体育の研究も、日常的に実践を行うことで、新体力テストの評価も向上しています。これからも、75名の教職員の良さが発揮され、ダイナミックに改革を行う大規模校の強みを生かした実践が期待されます。



NO.238 2021年9月 大在小学校

環境をつくる

「この絵は何を伝えたいのだろう」「だれがどんな思いで描いたのだろう」想像する力や表現力が発揮できる。



NO.237 2021年9月 大在小学校

より良いものに

お互いの考えを尊重し、本音で対話することで、より良いものを創りだす。訪問はそのための時間です。

今後は、本校の最上位の目標であり、教科横断的な資質・能力である「自己判断力」を育成することを念頭に、学校経営計画表にあるそれぞれ取組項目が、どの「資質・能力(3本柱)」を育てるのかを明確にしてみたいかがでしょうか。

教職員も子ども達の人数が多いため、皆の意識を揃えることは難しいこともあるでしょうが、常に上位目標(何の力をつけるのか)を共通理解すれば、その取組方法(手段)は担当者や担任、子ども達に任せることが出来ます。そのことで、それぞれの当事者意識や責任感がより高まり、教職員も含めて「自己判断力」が育成されると思いました。